

であつて、それより以前にも同様のトルコ名が行はれて居つたとしても、漢史の上にはそれが漢名と同一で無い限り、書き傳へらるべきでは無かつたと見なければならぬ。西方の記録も蒙古時代に至る迄は、その記事の此の地方に及ぶもの極めて寥々たる有様であつたから、初めてこの時代になつて此等の地名を傳へて居るとしても、その以前に於てかゝる名の存しなかつたことを證するものではない。従つてこの文書の時代を定めようとするには、全く別の立場から考察しなければならぬ。

新疆地方から發見された多くのトルコ文書の時代を定めることは、今日の學界に於ては至難と認められて居る。此の文書にしても、吐魯番から出土した摩尼教關係のものではあるが、この教は回鶻人の間に、唐代以後引續いて蒙古の崛起時代に至るまで、佛教基督教等と共に行はれたと考へられるから、假令その以後のものでは無いと斷じ得るとしても、的確にその時代を定めることは出来ない。併しながら此の中に記されてある回鶻人の官號は、支那の記録に據る限り、殆んど皆唐代の史書に見えるものばかりであつて、宋・元時代の記録に於ては、僅少の一部を除く外現はれない名である。従つてこれと同種の文書を、從來すべて唐代のものとして認めて居るのは、假令多少時代の下るものがあるかも知れないとしても、略々承認されることと思ふ。果して然らば此の文書に見える此等の地名は、既に唐代から此の地方のトルコ族の間には用ゐられて居たもので、蒙古時代になつて初めて行はれたものでないことを認めなければならぬことになる。

かゝる考の下に、吾人が支那や西方の史籍を涉獵すると、此の三箇の地名の中には、既に蒙古時代以前から、そ